

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600416		
法人名	ヤマト株式会社		
事業所名	グループホーム ニングルの森北白川		
所在地	京都府京都市左京区浄土寺石橋町69番地		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2691600049-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

哲学の道に施設が面して立地しており、お天気の良い日は、入居者様はお散歩を楽しまれています。建物は元志津屋の女子寮であり、階段・段差があるのですが、段差をデメリットと考えずメリットと捉えて、生活リハビリを取り入れています。おかげで90歳の入居者様も階段を自力で昇降されています。入居者様もお元気で家事にも積極的に参加してくださったり、クリスマス会やお節料理作りや節分等の行事も、入居者様と職員と一緒に盛り上がりながら楽しく行うことが出来ました。今後は看取りに積極的に取り組んで行こうと、職員間で話しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成14年11月に開設されました。「銀閣寺」に近く、「哲学の道」に隣接しており、春は桜、夏は蛍、秋は紅葉、冬は雪景色と川の流れて四季を彩る変化を身近に感じる恵まれた住宅環境下で、法人の理念「自然・地域と統合した人間としての幸せな生活」を営んでいます。利用者の平均年齢82.9歳、介護度3.0です。コロナ禍ではありますが、近くの神社への初詣をおこない、小人数での散歩や車中から季節を感じるドライブは継続しています。近隣のお地藏様への毎日のお参りも続けています。事業所内は階段や段差がありますが、職員が必ず付き添い安全に留意し、独歩での生活の継続を支援しています。利用者が季節に合わせて作る貼り絵や切り絵は、玄関や外の掲示板に貼り、近所の方から「見せてもらっています」との言葉が寄せられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は「自然・地域と統合した人間としての幸せな生活」を認識し業務を行っている。理念を額に入れ掲示し、月一回の北白川の職員会議では理念を踏まえた話し合いをしている。	法人理念を踏まえ北白川目標を「尊厳と笑顔を大切にする」と定め、今年度ユニット目標を「毎日生き生きとすごせるように個々の生活スタイルに合わせた援助をおこなう・できることは自分でしていただき一人一人の意欲の向上に努める」と挙げ、行動計画を立て日々のケアを実践している。月1回の職員会議や毎朝の申し送り時にプチ会議をおこない、常に振り返りながら、利用者の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は町内会組長をさせていただいており、回覧板の管理、町内会費の集金などで交流している。八神社の総代様とも電話にて連絡をとり、初詣に入居者様と職員とで行った。	地域の行事や事業所に家族や地域の方を招待しての行事、ボランティアの支援など今年度は全て自粛している。今年度は町内会の組長を努め、回覧板を廻すなど地域住民との関係性は維持している。哲学の道沿いに掲示板を設けて、利用者の作品を掲示し、地域の方から「見せてもらっています」との声が届いている。傾聴ボランティアとは「はがき」でやり取りを続けており「さつま芋」が届けられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板で哲学の道の清掃の案内があり、今回はコロナ感染対策で参加できませんでしたが、収束の際は元気な入居者様が多いので、積極的に地域の行事に参加し、地域の方と交流していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もメンバーを増やし、コロナ感染対策として書面で報告と連絡事項を伝えた。アンケートの回答の中で、リモートによる面会の希望があり、実施した。	今年度はコロナ禍のため、全て書面報告となっている。利用者や職員の現況、活動内容、連絡事項、同時にアンケート用紙も添えて送付している。メンバーから返信が届き、次回の運営推進会議の議題にしている。会議の構成メンバー体制がやや固定化していたため、この1年間で幅広い分野から就任の要請をした結果、自治会長、副会長、民生委員、老人福祉員、神社総代など多数の地域代表の参加が実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定更新の申請を役所の窓口へ訪問し、申請の仕方の変更を教えてもらった。消防訓練では鹿ヶ谷消防の消防士様3名来所くださり、避難訓練を全員で安全に行い、確認できた。	行政とは、管理者の交代時期とコロナ禍が重なり連携が薄くなっているが、介護保険更新手続きなど不明な点は指導を得ている。地域包括支援センターとは、運営推進会議で意見や情報を得て連携している。行政主催の諸会議は中止であったが、「地域ケア会議」が3月から再開された。諸会議には参加して情報交換をしていく予定である。	介護認定の更新申請、運営推進会議の議事録、外部評価の報告書、広報紙などを提出する機会を捉えて、相談や指導を仰ぐなど協力関係を築かれることを望む。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年継続して社内研修をマニュアルに基づいて実施し、職員全員周知している。	法人主催の「身体拘束・虐待防止委員会」を年4回開催している。研修後にアンケートを実施して、その結果を委員会で検討し、各事業所に周知徹底を図っている。言葉の抑制（スピーチロック）も含め、職員の言動には特に注意を促している。委員は職員会議で会議内容を報告し検討しているが、会議録では確認できなかった。京都府からの「虐待防止管理者研修」の動画配信を管理者は受講している。	事業所内での話し合いも議事録に残し、事業所内での言動の統一など積み重ねていかれることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待防止委員会を設置し年2回の研修を行い、各事業所間でも意見交換・マニュアルの見直し等を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてのセミナー参加を検討している。また現在成年後見人制度対象者については入居時等に勧めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お互い納得がいくように、説明・質疑応答ができるよう十分な時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のアンケートで入居者様・家族様の意見を確認し、職員会議で検討し、結果を連絡事項として家族様に書面を送付し報告している。	日常生活の中での会話や行動から、利用者個々の意見や要望をくみ取っている。今年度は家族の面会は自粛しているが、法人からアイバットの配布を受けオンライン面会を実施している。また、運営推進会議の議事録を送付時にアンケートをおこない諸意見を得ている。家族会の開催を期待する声があり検討を始めている。「可能な限り外出をさせて下さい」「ガレージの方に出入口を作ってほしい」などの意見に対して事業所の見解を返している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、月1回の職員会議で、意見や提案を確認しより良いサービスに具現化するよう努めている。職員面談も年2回実施している。	年2回主任が職員の人事考課面接を実施し、その後 管理者と主任が個別(評価)面談をして意見や要望を吸い上げている。面接前には各職員は「自己評価表」を記載している。職員会議前には、各職員から議題提出がある。勤務体制の見直しや不潔行為への対応、レクリエーションの充実などさまざまな提案がある。今年度の事例検討リモート発表会には、不穩の続く利用者への対応で「私の居場所み一つけた」を発表している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの報告で各職員の状況を把握し、職員には自己評価をしてもらい、主任・管理者・所長・社長と評価を行い面談にて職員と話し合う機会を設けやりがいをもらえらるるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は研修計画に沿って、基本を教え、定期的に専門的な内容の研修を行っている。職員面談を年2回実施し職員の仕事に対する意見を聞き、やりがいをもらえらるるよう話す機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設(グループホーム)との見学・意見交換の受け入れ、また他同業者(他サービス事業者)の見学を受け入れている。法人にて同業者職員・地域包括の方を招き、事例検討発表会を開催し勉強会を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式にて入居様・家族様からの情報収集に努めている。見学・入所前の入居者様宅・入所前の施設の訪問にて情報収集する時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面会時にニングルの森北白川はどんな所か説明し、現在抱えている問題点や不安を聞き出し、不安を取り除けるようにアドバイスをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居様様の現在必要としているサービスは何なのかという抽出への助言を行う時間に重点を置いている。また状況次第では他のサービスについての説明を行い助言している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員と一緒に生活できる場面を作るように努めている。入居者様に出来ることは行ってもらい、職員は入居者様の出来ないことを援助しお互いに「ありがとう」と言う関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が参加しやすいイベントを企画し、入居者様と家族様が共に喜んで頂ける機会を多く作るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣から来られた入居者様は馴染みのお店やご近所付き合いをされていた為、ご近所の方が近況を知りたくて訪問されることがあり、その都度対応している。そしてその関係性を大切に思い継続している。	アセスメントシートで馴染みの場所、行きたい場所を聴取し新たな情報は追記している。コロナ禍でも馴染みのスーパー、公園への散歩をおこない、撮った写真をパッチ加工して部屋に飾っている方もいる。事業所と川を挟んで木像のお地藏さん通称「幸せ地藏さん」があり、水や花を供えている。今年度はドライブで車中から自宅近くや娘の自宅、大津へ墓参りなど、個別に馴染みの関係が継続できるように支援している。家族に毎月近況報告を手紙と写真、ニングル通信で伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事参加を分担制にしトラブルを避けたり、コミュニケーションが難しい入居者様は、職員が関わり、それぞれに出来る事をして頂く環境を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の支援・相談を行っている。近況報告を送ったりして、退居後もお付き合いが継続できるように努めている。お近くにお越しの際は、気軽に訪問してもらえようような関係を築くように心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご本人の言葉(希望・不満・不安)をくみ取れるように日々職員はかかわっている。入居者様の気持ちを記録し、ケアプランに反映している。	本人と家族から入居後の希望を聞き取って「ケアプラン個別ニーズの記録表」に書き全職員が共有している。日常生活の中で、カラオケ、利用者のギター演奏、職員によるウクレレ演奏など音楽レクリエーションは好評である。花の水やりや日々の散歩など「その人らしさ」を発揮できるように、介護計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や入居後の会話などで把握するように努めている。また毎月のカンファレンス・モニタリングで日常の変化を検討し職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス・モニタリングで職員間で把握し、共有している。必要時には直ぐにミーティングを行い対応し介護計画に反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・家族様の希望や意向を尊重しケアプランを作成し、毎月カンファレンス・モニタリングを実施している。毎月一回の職員会議にてチームで話し合いを行い、介護計画を作成している。	毎月ケアカンファレンスを実施している。モニタリングと計画見直しをおこない、担当職員がモニタリング表を用いてまとめている。サービス担当者会議は6か月ごとと、状態変化時、介護保険更新時に実施している。今年度は家族の出席は自粛である。コロナ禍で家族の不安は増すこともある。家族への意向確認や説明は継続を望む。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録中に、入居者様の言葉・表情などを記録し、朝の申し送り時や職員会議で情報を職員間で共有し介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の食事作り・食器などの洗い物、お花の世話、お散歩、お地藏さんへのお参り、ドライブ・体調に応じての外気浴等、個々のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーマーケット、薬局、郵便局、銀行、喫茶店、本屋、お菓子屋等、入居者様の趣味嗜好に合わせた楽しみを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を大切にして頂いている。また、そのことを当施設の主治医にもご理解頂けるよう、間に入り説明している。	利用者は現在全員が、協力医療機関をかかりつけ医として訪問診療を受けている。歯科医や歯科衛生士の訪問診療はコロナ禍で中止しているが、臨時での往診はある。看護師は短時間勤務でバイタルチェックや爪切りなど処置をおこなっている。他科の受診は職員が付き添い診療内容は「受診記録」に書き共有している。夜間や緊急時はかかりつけ医の指示で対応している。職員の連絡網で応援体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設看護職及び主治医との話し合いを密に行う様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員も対応し、お見舞いなどで病状を把握し、家族様への対応の相談・助言に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア・看取りについての指針を作成し体制を整えている。終末期には、家族様と職員とのチームで支援に取り組んでいきたい。	入居時に利用者(家族)に「認知症共同生活事業における看取りに関する指針」に沿って説明して理解を得ている。必要に合わせ、医師や管理者から詳細な説明をしている。点滴が必要になれば、職員付き添いの通院や事業所内で看護師が対応するなど支援している。昨年1月にも眠るように人生を全うしていかれた。看取りの経験を積んでいる職員は多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の緊急対応についての講習を行った職員を配置し、マニュアルにより事故防止策を講じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(避難誘導・初期消火訓練)を入居者様・職員参加で年2回実施している。緊急連絡先の連絡網と対策マニュアル作成し全職員周知している。	法人で「災害対策委員会」が設置しており、マニュアルは作成している。年2回防災訓練を実施し、1回は消防署立ち合いのもと初期消火や利用者(内、車椅子1人)全員2階への避難訓練をおこなっている。全員の避難に6分7秒かかった。事前に掲示板で地域に防災訓練の告知をしているが、地域の方の参加は得られていない。地震や水害を想定した訓練は今年実施していない。備蓄は水と食品、備品など3日分がある。	今年度の目標達成計画に「地域との協力体制の構築」を挙げているが、コロナ禍で達成できていない。地域代表の運営推進会議メンバーの協力を得て継続した取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全入居者様、個室にて対応している。居室・トイレに鍵もかけられる状態である。言葉かけや対応については、研修を行い、職員間で周知している。	今年度は「認知症ケア」や「接遇」研修はチャットワークで学んでいる。言葉や態度での虐待はないかなど職員会議で話し合い、利用者の顔色や表情を読み、言葉の情報を利用者の理解できる範囲にすることや「待つて」は使用しないなど統一している。音や気配で利用者の行動の予知や予見ができる職員が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自身で決断できない場合は、幾つかの選択肢を表示し、決断できるように促しの声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位の体制を大切にし、起床・就寝時間や食事時間など、希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時にはお化粧品やマニキュアを塗ってもらい、必要時には訪問美容カットを利用して気分転換し楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には法人内の栄養士が作成した献立に基づいて食事のメニューを決め調理しているが、時には入居者様の希望を聞き、メニューを変更している。買い物・調理・片付けも入居者様と共に行っている。	法人の管理栄養士が1か月分の献立を作成しているが、利用者の希望で変更することもある。餃子、オムライス、たこ焼き、お鍋など要望に応じている。買い物は職員が行き、利用者は調理～後片づけまで、出来ることで役割をもっている。エプロンをつけ生き生きと働く利用者の姿がある。外食や弁当をとり、目先を変えての楽しみも提供している。手作りおやつは週1回おこない、蒸しケーキ、ホットケーキ、クレープは好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人に個別に対応出来る様にチェック表を作成し、職員が周知し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケア・ナイトケア・3回の食後に口腔ケアの支援をしている。職員に対して歯科衛生士より入居者様個別の口腔ケアの助言や指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者様それぞれの排泄パターンを職員が周知し、トイレ誘導の声かけを行っている。職員会議にてパット・オムツの種類等話し合い対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本としている。介護時は「自尊心が傷つかないように配慮する。・排泄後の手洗い励行で清潔保持に努める」を今年度の「排泄について」のサービス計画にしている。パットやリハビリパンツの使用は家族の了解を得ている。自立の方もおられるが、ポータブルトイレの使用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の服用の有無はチェック表にて確認し行い、便秘予防として、マッサージや乳製品提供・散歩・リハビリ体操など適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様が安心して入浴できる環境を整え、声かけを行っている。入浴日は週2回を基本としているが、入居者様の希望に沿って柔軟に対応している。	今年度の「入浴について」のサービス計画に「・快適な入浴の楽しみを提供する・体調に合わせた安全な入浴介助を目指す・出来ることは自分でして頂き出来ないことをお手伝いしADLの維持を意識した介助をおこなう（一部抜粋）と挙げ支援をしている。入浴は週2回を基本としているが、3回入浴の方など柔軟に対応している。入浴をおっくうがる方はいるが拒否者はいない。シャンプー、リンス、タオルは個人の好みで使用している。ゆず湯、菖蒲湯の提供がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の決まりは無く、入居者様の以前の生活パターンに合わせて柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診表・受診表を作成し、薬情報の管理を行い全職員周知している。記録物に個別に記入し、薬のチェックをセット時・内服時確認してから服用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事は入居者様の意向に沿って分担して行ってもらい、レクリエーションでのおやつ作りや飾り付け等それぞれの意向に沿えるように調整し行き気分転換してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	哲学の道沿いに立地している利点を生かし、好天時はお散歩に出掛けている。買い物やドライブは平等に出かけられるように調整し行っている。受診等は家族様に協力してもらっている。	玄関を出ると哲学の道がある。日々の散歩はこの道で、地域住民の方と挨拶を交わし、四季の変化を感じている。近くの公園でお茶やお菓子を食べることもある。コロナ禍で人の出は少なく散歩はしやすい。近くの「幸せ地藏さん」にお参りを続けている方たちもいる。また、車椅子対応車があり、人込みを避けてドライブを計画している。將軍塚には2組に分かれて行き、絶景を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者様には、自身でお財布を所持してもらい、管理が難しい方は必要時に入居者様のお財布から精算してもらう様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの入居者様は所持してもらい、いつでも電話を掛けられる状態である。手紙や年賀状は職員が支援し、家族様や友人等に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備に努めている。リビングには入居者様が手作りされた季節感ある塗り絵や貼り絵を飾り、カレンダーも入居者様が貼り替え、時計を設置している。	リビングは広くはないが、利用者が共に食事を作り洗濯物をたたみ、レクリエーションで明るく過ごせる場所になっている。利用者の作成した桜の切り絵や貼り絵が春の訪れを告げている。過度の装飾はない。歌が好きな方が多く、利用者のギターや職員のウクレレで歌を聞き歌ったりと賑やかな時間を過ごしている。1階のロビーに仲良しの女性たちが集まり、たわいもない話も始まる。不快になるような音や臭いは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーは共有スペースとして開放し、テレビや入居者様の写真等展示して会話が弾むように工夫している。また居室にて個人の生活を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や品物を持参してもらい、安全面に問題がなければ、レイアウトは入居者様や家族様に任せて、以前の生活に近づけるように努めている。	職員は「自宅で使っていたものを持参してください」と言っている。使い慣れた馴染みのテーブル、椅子、整理タンスや家族の写真に混じり、愛犬の写真を慈しんでおられる方がいる。ギターを演奏していた方の部屋には、何台ものギターが並び存在感がある。持ち込みは自由で家族と共に使いやすく配置している。室内はよく整理・整頓され広い空間がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事・入浴・レクリエーション等でリビングやトイレや浴室への移動は階段を使用している為職員が付き添い安全確保に努めている。階段昇降機・手摺を設置し入居者様のニーズに対応している。		